2024年３月29日

全国商工会連合会

**＜産業全体＞**

**２月期の産業全体の景況は、採算・資金繰り・業況DIが小幅に改善した一方で、売上額DIがわずかに悪化した。インバウンド需要の活発化等を中心として、売上額DIがプラス値を示す業種が増え経済の正常化が進みつつある。資金繰り・採算DIは６期連続で改善しているものの、全業種においてマイナス値で推移しており、コスト高騰に価格転嫁が追いつかない状況が続いている。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **D I** | **１月** | **２月** | **前月比** |
| **売上額** | 8.1 | 7.0 | ▲ 1.1 |
| **採算** | ▲ 16.8 | ▲ 14.2 | 2.6 |
| **資金繰り** | ▲ 14.1 | ▲ 11.4 | 2.7 |
| **業況** | ▲ 11.3 | ▲ 7.7 | 3.6 |

小規模企業景気動向調査　［２０２４年２月期調査］

～経済の正常化が進みつつあるが、コスト高騰に価格転嫁が追いついていない小規模企業景況～

**＜製造業（食料品、繊維、機械・金属）＞　人手不足や価格転嫁等の問題が山積している製造業**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **D I** | **１月** | **２月** | **前月比** |
| **売上額** | 10.5 | 8.3 | ▲ 2.2 |
| **採算** | ▲ 17.8 | ▲ 13.6 | 4.2 |
| **資金繰り** | ▲ 13.9 | ▲ 11.8 | 2.1 |
| **業況** | ▲ 10.4 | ▲ 8.0 | 2.4 |

製造業は、採算・資金繰り・業況DIが小幅に改善、売上額DIが小幅に悪化した。

食料品関連では、暖冬の影響によりシーズン向けの商品を扱う店舗は売上が伸び悩んでいる。慢性的な人手不足は続いていて苦しい状況。繊維工業関連の事業者は、季節商品の製造時期で、業務量は多いものの採算は悪い。メーカーも物価高の影響で単価を引き上げることが難しいとの話で、価格交渉がうまく進んでいない。機械金属関連の事業者は、受注が減少傾向。

**＜建設業＞　災害特需で需要はあるが、材料不足等で稼働率が低下している建設業**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **D I** | **１月** | **２月** | **前月比** |
| **売上額** | 12.4 | 11.4 | ▲ 1.0 |
| **採算** | ▲ 19.7 | ▲ 14.8 | 4.9 |
| **資金繰り** | ▲ 15.7 | ▲ 11.6 | 4.1 |
| **業況** | ▲ 12.0 | ▲ 6.3 | 5.7 |

建設業は、採算・資金繰りDIが小幅に改善、業況DIは大幅に改善、売上額DIはわずかに悪化した。

記録的な暖冬で、冬場の除雪を請け負っている建築業者の収入が大きく減少。災害復旧工事等での需要はあるが、工事が一斉稼働したことにより、材料不足が発生している。降雪が少なく、多くの事業者が例年より早く着工でき業況は上向き傾向。年度内での工期終了案件が多く、繫忙期では人手不足で工期の長期化や回転率低下が課題。

**＜小売業（衣料品、食料品、耐久消費財）＞　売上額DIは悪化も、価格転嫁が進んでいる小売業**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **D I** | **１月** | **２月** | **前月比** |
| **売上額** | 2.0 | ▲ 0.2 | ▲ 2.2 |
| **採算** | ▲ 21.0 | ▲ 18.4 | 2.6 |
| **資金繰り** | ▲ 18.6 | ▲ 15.2 | 3.4 |
| **業況** | ▲ 17.3 | ▲ 13.7 | 3.6 |

小売業は、採算・資金繰り・業況DIが小幅に改善した一方で、暖冬で季節性商品の売れ行きが落ち込み、売上額DIが小幅に悪化した。

コロナ禍はすべて袋詰めで販売していたが、コロナ前のように量り売りができるようになってきたのは好材料。年末年始消費の反動が２月の売上に影響している。耐久消費財は、電気料金値上げの影響に伴い省エネ家電販売の動きが堅調。各種商品の値上げが進み、必要な商品を必要な数だけ買い上げる顧客傾向にある。

**＜サービス業（旅館、クリーニング、理・美容）＞コスト高の影響や価格転嫁に苦慮しているサービス業**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **D I** | **１月** | **２月** | **前月比** |
| **売上額** | 7.5 | 8.7 | 1.2 |
| **採算** | ▲ 9.0 | ▲ 10.0 | ▲ 1.0 |
| **資金繰り** | ▲ 8.0 | ▲ 6.8 | 1.2 |
| **業況** | ▲ 5.7 | ▲ 2.8 | 2.9 |

サービス業は、売上額・資金繰りDIがわずかに改善、業況DIが小幅に改善、採算DIがわずかに悪化した。

宿泊業ではインバウンドの影響により売上確保につながっている。クリーニング関連では、設備更新ができていない事業者では、燃費の悪さが経費圧迫の問題となっている。原材料エネルギー価格の高止まりが続き、価格転嫁に苦戦。理・美容関連は昨年比較で好転している。既存店は新規需要獲得が存続の分かれ目となる。

**調 査 概 要**

・調査対象：全国302商工会の経営指導員（有効回答数：215/回答率71.1％）

・調査時点：2024年2月末

・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI（景気動向指数）は各調査項目について、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。

**産業政策部　産業政策課　担当：宮川　〒100-0006千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19F　TEL：03-6268-0085 　MAIL：sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp sangyo@shokokai.or.jp**